

■主役は俺だー2025年秋⑦ 2部編

- 竹内 連也 (たけうち・れんや) 北海道科学大3年 RB
- 清家 海地 (せいけ・かいち) 北星学園大4年 WR/LB/P
- 小山 琉斗 (こやま・りゅうと) 札幌学院大4年 OL/LB



昨季、7年ぶりの2部優勝を果たしたが、入れ替え戦で帯広畜産大に敗れた北海道科学大。14年ぶりの1部復帰を目指す今季の鍵を握るのが、エースRBの竹内連也だ。166センチ、74キロの豆タンクのような体で、力強くスクリーメージラインに飛び込むのが信条。「あきらめないで穴を探し続けるのが持ち味。ストレートアームも自信がある」と胸を張る。昨季はリーグ戦2試合で142ヤードを走り3TD。優勝決定戦となった北星学園大戦ではワイルドキャット陣形から決勝のQBダイブTDも決め、2部の優秀選手賞も獲得した。

雪辱を期す今季。「1部復帰は予定ではなく決定事項」と力を込める。かつては部員不足に泣いたチームも、1年生のオフに竹内連也

が大量10人を勧誘したのを機に入部者が増え、今季は1年生6人を含む25人になった。竹内連也がRBに専念できる余裕もできた。「チームとしては2試合を完封勝ち。個人としては毎試合5TD」と宣言。その先の入れ替え戦勝利をにらむ。秋季リーグを前に新ユニホームが届いた。胸に「WOLVES」の文字が光る。「1部仕様のユニホームです。着心地も最高です」と顔をほころばせた。

1977年創部の名門、北星学園大は今季、1年生9人を含む選手17人で秋季リーグに臨む。2023年シーズンに部員不足から1部最下位、入れ替え戦も敗れて15年ぶりに2部に降格した。最短での1部復帰を目指した昨季も

主力選手のけがで北海道科学大に惜敗した。清家海地主将は「目標は1部復帰。新チームは人集めから始め、部員たちの熱心な勧誘で9人が加わった。試合は1年生頼みになるが、基礎からしっかりと鍛えて、チームの一体感は出来上がった」と、ここまでを振り返った。

伝統のパス攻撃は、昨季の2部新人賞のQB伊藤昊咲（2年）とWR清家主将の連係が鍵となる。

「2022年シーズンの中手一中田のようなホットラインを、伊藤と早く作りたい」と決意する。パス攻撃を支えるラインの強化、攻守兼任の体力アップなど、1年生頼みのチームの課題は多い。「最初にグラウンドに出て、ボールの空気入れもする。1年生たちにアメフトへの情熱を知ってほしいから」と願う。チームの危機に若手OBが新人

たちを個別指導してくれるのにも感謝しながら「1年生たちが4年生になった時には北海学園大や北海道大と互角に戦えるチームになれば」と長期計画もにらんだ。

登録選手12人の札幌学院大だが、1人がチームを離れたため、秋季リーグは11人の少数精鋭で挑むことになった。ただ1人の4年生で主将の小山琉斗は「1年生の時は合同チーム、2年生の時は12人で戦い科学大に勝てた、3年生の時は2連敗で2部3位だった」と、部員不足に苦しみ続けた3年間を振り返りながら「自分も辞めたいと思ったこともあるが、上級生になるにつれて、アメフトのおもしろさが分かってきた。今年の大会は自分たちの根性を見せたい」と力を込めた。

6人から始まった新チーム作り。懸命の勧誘で1年生2人、2年生3人が加わった。かつては1部で優勝4回の名門だが、「試合がしたいから」のモチベーションでチームを守ってきた。秋季リーグでは「できることをやっている。特に成長した2年生の姿を見てほしい」と言う。個人の目標は、今季から





務めるOLBで役割を果たすこと。「インターセプトやファンブルリカバーを狙いたい」と決意する。そして後輩たちに「アメフトの楽しさを分かって、次につなげてほしい。いつか、強い札学を復活させてほしい」と夢を託した。
(塚田博)